

「正しい祈りは大きな力」

ヤコブ5：15－18

堀田修一 21・8・8

先行的神の恵み＝1. 永遠に変わらない愛で神は私たちを愛しておられる。2. キリストは、私たちのすべての罪を負い、身代わりに十字架で死に、すべての罪を償ってくださった。それゆえに、今も、日々、隠さず告白する私たちの罪を赦して下さい。3. 御聖霊は、私たちの罪を示し、主の十字架を示し、信仰を与え、愛、喜び、平安という実を心に結ばせて下さる。ご聖霊は、私達が祈るのを助けて下さる。

I 「信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます」：15。

1. 信仰の祈りは、病んでいる人が主を信じ救われるように用いられます。私は、その事実を見て来ました。※証し。また信仰の祈りは、病んでいる人が癒されるように用いられます。但し、病んでいる人が癒されるか癒されないかは、神の主権、御心によります。結果は神に委ねましょう。「もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます」：15。次のみことばは、励ましです。この地上では、罪がない人は、誰もいません。ですから次の御言葉の約束があります。「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」(Iヨハネ1：9)。私達が自分の罪を正直に告白する時、神が真実な赦しときよめを下さるのは、主イエスが、私達のすべての罪の償いを十字架で完了しておられるからです。神に感謝し賛美しましょう！
2. ある人に障害がある時に、それは、その人が親が、罪を犯したからだとは決めつけてはなりません。みことばに、その答えがあります。弟子達はイエスに尋ねた。「先生、この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです」ヨハネ9：2－3。※証し

Ⅱ「ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです」：16。

1. 神は、私たちの祈りを喜んで聞き、答えられる(答え=①はい②いいえ③待ちなさい、祈り続けなさい等がある)が、私たちの側に、告白していない、隠している罪があると、神が御業をなされることを私たちの罪が仕切りとなり邪魔することになる→①「主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。あなたがたの咎(外れるの意)が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪(不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、憎しみ、恨み、ねたみ、醜悪、悪い遊びにはまってしまう)が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ」(イザ59：1, 2)。②「祈っているとき、だれかに対して恨み事があったら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪(人を恨み赦していない罪)を赦してくださいます(→神との間に仕切りや壁や曇りがなくなり、神との幸いな交わりの回復)」(マルコ11：25)。神との交わりである祈りを邪魔し、仕切りとなっている自らの罪を告白し悔い改めると祈る者に神の祝福がある。神の主権、御心によるいやし。精神的、霊的ないやし(神との関係の回復)も神は与えてくださる。
2. 「罪を言い表し」には、いくつかの種類がある。①神に自分の罪を正直に告白し赦しをいただく(Ⅰヨハネ1：9)。感謝！②ある人に悪い事をした場合、その人にお詫びし、赦しを願う。③神に罪を告白し赦しをいただいても、その罪、悪の習慣を繰り返してしまう場合、自分一人では弱いので、信頼できるお互いが、自分の罪、弱さを打ち明け、互いにその交わりの中におられる全能の神に互いに祈る。「罪の赦しを感謝します。と同時に、罪を繰り返してしまう私たちに憐れんでください。御聖霊と御言葉の力により、罪、悪の悪習から離れる事ができるように助けて下さい」と祈りましょう。
3. 「正しい人の祈りは働くと、大きな力があります」：16。「正しい人」とは、罪のない完全なキリスト者のことではない。この地上には、完全な人はいない。ここでの「正しい人」とは、完璧な人ではなく、自分の罪を正直に神に告白し罪を赦され、きよめられ神と正しい関係にある人。そのような意味の「正しい人の祈りは、働くと大きな力があります」：16。この真の意味は、罪を告白して神に赦され、神との関係が回復して、心から祈る時、また互いに祈り合う時、大きな力をお持ちの神が、大きな力を働かせ、神のみわざを現わされるということ。神を賛美します！自分が祈っても何にもならないと思いを違えてはいけません。他の人に祈りの要請をして祈ってもらっても意味がないと思いを違えてはいけません。神は、私たちの真実な祈りを聞いておられ、神の時に神の方法で(私たちには、わからないが)、御業をなされます。パウロは、他の人々の為に心から良く祈る人だったが、自分の働きのためにも「祈って

下さい」と心から祈りの要請（ローマ15：30、エペ6：19, 20、コロ4：3、Iテサ5：25、IIテサ3：1）した。それほど自分の弱さと全能の神への祈りの大切さ、悪魔の攻撃、全能の神の力の必要、祈ってもらう大切さを心から自覚し知っていた。祈りの支えなしに奉仕は祝福されない。

Ⅲ「エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を实らせました」：17, 18。

1. エリヤは特別な人で私たちとは違うと思いを違える私たちへの励まし→「エリヤは、私たちと同じ人間でした」。私たちと「同じ」の原語は、「同じような感情（性質、事情、経験）を持っている、同様な、同種の。「同じ様に」と「苦しむ、感情」の合成語：同じ事柄を苦しんでいる」の意。※証し。聖書には、正直に、エリヤの苦しみ、弱さも記されている。彼は、450人のバアルの預言者たちに対して、神を信頼する祈りによる大勝利を治めた（I列18：9～40）。しかし、その直後、彼はイゼベルを恐れて逃げ（19：1～）、「主よ。もう十分です。私の命を取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから」と言った（19：4）。神は、そのエリヤを優しく受け止められた（19：5～16）。私たち人間には、成功や何かを成し遂げた後に、燃え尽き、鬱の状態がやって来る事があると知っておくことは助けとなる。このエリヤの姿を記された御言葉から、私たちは、かえって慰められる。聖書の中の偉人と思われている人々も皆、弱さのある人間なのだと。彼らが、大きな働きができたのは、彼らが弱さのないスーパーマンだったからではなく、自分の弱さを自覚し、力強い神に頼ったからだ。
2. そうであるならば、弱い私たちも、神に心から祈るなら、神から愛と力と聖さが与えられると励まされる。私たちが、互いに罪を言い表し、互いのために祈る時、神が御業をなされる。私たちが祈らない時、心配、思い煩い、不平不満、人を責め自分を責める事が多くなる。霊的な力がなくなり、あせりや性急さが増す。怒りっぽくなる。人間的、世的な考え方しか持たなくなり、希望を失い、神が生きて働いて下さる事を忘れる。私達が神に祈る（神と交わる）時、愛、喜び、平安、寛容、霊的な力、神の視点が与えられる。あせらず、あわてず、あきらめず感謝をもって祈りたい。怒り、かっとなり、爆発しそうな時、寛容に接する愛が与えられる。自分たちには弱さがあるが、神は生きておられ、御業をなして下さると期待する信仰が与えられる。「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」ルカ18：1。神は私達の祈りに答え、力を発揮されます。毎日、午後6時から11時、良い時に祈りましょう！